

between both apical cells. D, Each apical cell has organized its own apical meristem. E, Leaf primordium has been initiated in one of the two newly established apical meristems. F, Leaf primordium is developed in almost the mid region of both apical meristems. a, apical cell; L, leaf primordium; S, shoot apical meristem. Scale, 100 μm .

* * * *

コバノイシカグマ属はイワヒメワラビ属, ユノミネンダ属などと同様, 葉柄基部にいわゆる葉柄芽をもつグループとして知られているが, 本邦産のコバノイシカグマは葉柄芽をもたず分枝は根茎の二又分枝による。イワヒメワラビ, ユノミネンダと同様, コバノイシカグマの葉原基は茎頂の表層細胞数個が起原となって発生を開始する。それらのうち中央の1細胞がレンズ型の葉原基頂端細胞を切り出し葉原基の上部を作り, 一方それを取りまくまわりの細胞群は葉原基の基部を作る。イワヒメワラビ, ユノミネンダではこの基部細胞群のうち背軸側あるいは向軸側に位置する表層細胞群がもっぱら垂層分裂を行い芽を分化するが, コバノイシカグマではそのような特別な細胞群はみられず, すべての基部細胞群が並層分裂をさかに行い芽を分化する事はない。以上から葉原基の初期発生の様式と葉原基構成という点ではコバノイシカグマとイワヒメワラビ及びユノミネンダとの間には差は見られない事がわかり, イワヒメワラビ, ユノミネンダの葉原基発生様式には葉柄芽をもつための特殊化はおこっていないと言える。

根茎の二又分枝では, まず茎頂の頂端細胞が識別できなくなる。その後, もとの頂端細胞の位置をはさむように茎頂に新しい頂端細胞が2個形成されて, これらがそれぞれの頂端分裂組織を作ることになる。

□ Santesson, Rolf: **The lichens of Sweden and Norway.** 333 pp. 1984. Swedish Museum of Natural History, Stockholm. スウェーデン及びノルウェー産地衣類のカタログである。著者は各種の文献や学名の取扱いに精通していることでは, 現在の世界の地衣学界随一であり, この点からも本書の出現が待たれていた。最近20年ぐらいの地衣学の進展は目覚ましく, 新属や新種の発見, 学名の組換えなど枚挙にいとまもなく, 標本整理のための参考文献が必要であるとの見地から本書を企画したとしている。そのためあって, 本書はむしろチェックリストと云う方が妥当かもしれない。各属の最後にシノニムの一覧表があったり, 生態, 分布の簡単なノート, とくに重要な文献があげられていたり, 便利な点が多い。定価は不明だが, P. O. Box 50007, S-10405 Stockholm にある上記の博物館へ申込みば入手できると思う。 (黒川 道)